

議題2 新たな劇場に求める性能等について

令和7年度第二回新たな劇場の整備・運営等懇談会

令和8年1月7日

観光文化交流局文化歴史まちづくり部文化芸術推進課

目 次

- 1 整備に関する基本方針等について
 - 1-1 新たな劇場におけるPFI事業(BTO方式)の事業範囲について
 - 1-2 機能配置のイメージとまちづくりとの関係について
- 2 施設の機能及び性能について
 - 2-1 第1ホール、第2ホールについて
 - 2-2 各諸室について
 - 2-3 搬出入について
- 3 バリアフリー性能について

目次

1 整備に関する基本方針等について

1-1 新たな劇場におけるPFI事業(BTO方式)の事業範囲について

1-2 機能配置のイメージとまちづくりとの関係について

2 施設の機能及び性能について

2-1 第1ホール、第2ホールについて

2-2 各諸室について

2-3 搬出入について

3 バリアフリー性能について

1-1 新たな劇場におけるPFI事業(BTO方式)の事業範囲について

【前回懇談会のおさらい】

1 整備・運営の検討にあたる前提条件

(1) PFI事業(BTO方式)について

- PFI事業においては、従来からの手法である「仕様発注方式」ではなく、「性能発注方式」を採用して事業者選定が行われることが一般的です。
- PFI事業者は、求められる水準の中で、自由な提案をすることができ、公共サービスの向上や一層の事業費の削減に向けた民間事業者のノウハウを活かせることになります。

○仕様発注方式と性能発注方式の違い

区分	内容
仕様発注方式	発注者(市)が施設の構造、資材、施工方法等について詳細な仕様を決め、設計書等によって民間事業者に発注する方式
性能発注方式	発注者(市)が求めるサービス水準を明らかにし、事業者が満たすべき水準の詳細を規定して発注する方式

○性能発注方式による公表・検討内容の一例

<公表内容>

行政側が作成・公表する要求水準書の例(他都市事例抜粋)

- ・座席数は固定席〇〇席以上△△席以下とする。
- ・勾配の確保や千鳥配置等により、全ての客席から主舞台が十分に見渡せるよう計画する
- ・生音の残響時間は、通常満席時〇～△秒を目安とする。
- ・ホール又は施設を一体的に利用して、文化芸術に関連するものを中心に、施設に賑わいを生むようなイベントを実施すること。なお、計画段階において市と協議し、市の承諾を得て実施すること。

<検討内容>

事業者による施設設計・事業計画への反映・提案の

- ・座席数は2,200席とする。
- ・客席配置は勾配1/〇の千鳥配置とし、シミュレーションを用いて全ての席から主舞台が見えるよう配置する。
- ・ホール内材質に●●を用い、内部形状を▲▲とする。よって、通常満席時〇秒の生音残響時間を確保する
- ・●●を招聘し、ホール公演だけでなく、共通ロビーニステージを設けて周辺の人も音楽を楽しめる鑑賞年間〇回以上実施する。また、演劇分野において著▲▲を講師とした若手育成講座を年間△回実施する

前回懇談会資料抜粋

- ・令和8年8月頃に
実施方針、要求水準書案を公表予定

- ・概算事業費 約580億円(税込み)

※令和6年5月時点の建設物価に基づく試算額

※施設の維持管理・運営費、周辺インフラの整備費は含まない

5 事業方式

概算事業費、想定スケジュール

■概算事業費(古沢公園・市民会館エリアの整備にかかる事業費)

約580億円(税込)

注1 令和6年5月時点の建設物価に基づく試算額
2 施設の維持管理・運営費、周辺インフラの整備費は含まない

■想定スケジュール

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	～	令和17年度
★ 基本計画策定	★ 公募資料作成	★ 事業者公募・選定	★ 現市民会館閉館	★ 現市民会館の解体 設計・建設(約7年)		★ 開館準備 新たな劇場開館

- 現地改築による事業であることから、現市民会館の解体や新たな劇場の設計・建設に7年程度の期間が必要となります。閉館期間中については、当地域の文化芸術活動の機運を絶やさぬよう、民間も含めたホールの整備状況等を注視しながらできる限りの対応策を検討していきます。

行政が公表する要求水準を基に、
民間事業者のノウハウを活用した提案
を求め、公共サービスの向上や事業費の
削減を図るため、「性能発注方式」を採用

⇒ PFI事業(BTO方式)

前回懇談会資料抜粋

1-1 新たな劇場におけるPFI事業(BTO方式)の事業範囲について

《事業範囲について》

新たな劇場における PFI事業(BTO方式)の事業範囲

【古沢公園・市民会館エリア】

- ・第1ホール、第2ホール
及び 関係諸室
- ・古沢公園
- ・古沢公園駐車場
- ・オープンスペース①(廃道想定)
- ・オープンスペース②

今回の懇談会においては、上記内容
についてご意見いただきます



目次

1 整備に関する基本方針等について

1-1 新たな劇場におけるPFI事業(BTO方式)の事業範囲について

1-2 機能配置のイメージとまちづくりとの関係について

2 施設の機能及び性能について

2-1 第1ホール、第2ホールについて

2-2 各諸室について

2-3 搬出入について

3 バリアフリー性能について

1-2
機能配置のイメージとまちづくりとの関係について

<<機能配置のイメージ>>



【古沢公園・市民会館エリア】

機能	諸室
ホール機能	第1ホール 聴くホール (2,200席程度)
	第2ホール 観る・魅せるホール (1,500席程度)
創造・活動 拠点機能 ／ 交流機能	スタジオ、練習室、会議室、 共通ロビー にぎわい・交流スペース ・イベント・コミュニティスペース ・飲食・物販スペース ・情報スペース
・古沢公園 ・古沢公園駐車場 ・オープンスペース①及び②	

【アスナル金山エリア】

機能	諸室
ホール機能	第3ホール 体感するホール (900席程度)
交流機能	共通ロビー

1-2 機能配置のイメージとまちづくりとの関係について

＜機能配置の内容＞

※新たな劇場基本計画抜粋

機能	基本コンセプト	施設名称		概要
ホール機能	聴くホール	第1ホール		<ul style="list-style-type: none"> ・客席数2,200席程度を想定 ・本市の文化芸術を象徴し、大ホールの劇場機能を継承するホール ・音楽を中心とした国内外アーティストの質の高い演奏を「聴くホール」
	観る・魅せるホール	第2ホール		<ul style="list-style-type: none"> ・客席数1,500席程度を想定 ・演劇・舞踊から伝統芸能の公演まで中ホールの劇場機能を継承するホール ・市民の文化芸術活動のハレの場として選ばれる「観る・魅せる」ホール
創造・活動拠点機能 ／ 交流機能	あらゆる人々の交流結節拠点	スタジオ		<ul style="list-style-type: none"> ・音楽・演劇・ダンス等の練習の場 ・最先端の演出にも対応可能な音響等の設備を備え、本番利用にも対応可能 ・各ホールのリハーサル室を兼ねる
		練習室		<ul style="list-style-type: none"> ・合唱や吹奏楽、バンドなどの電気楽器、ダンス等を練習できる空間
		会議室		<ul style="list-style-type: none"> ・各種会議や研修等、多用途での利用が可能 ・各ホールの控室としても利用可能な配置とする
		共通ロビー		<ul style="list-style-type: none"> ・施設全体の共用ロビー空間 ・鑑賞目的のない人でも気軽に訪れることができる、常に開かれた場
		交流スペース にぎわい・	イベント・コミュニティスペース	<ul style="list-style-type: none"> ・共通ロビーに面した共用部に、日常的にイベント開催可能なスペースを設け、にぎわい創出の場とする
			飲食・物販スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・共通ロビーや通りに面した位置に、併設施設としてカフェ・ショップ等を設け、施設のにぎわいと市民の交流を創出する
			情報スペース	<ul style="list-style-type: none"> ・共通ロビーに面して市内の文化芸術に関する情報を一元的に集約したスペースを設け、市民が文化芸術に触れる機会を創出する

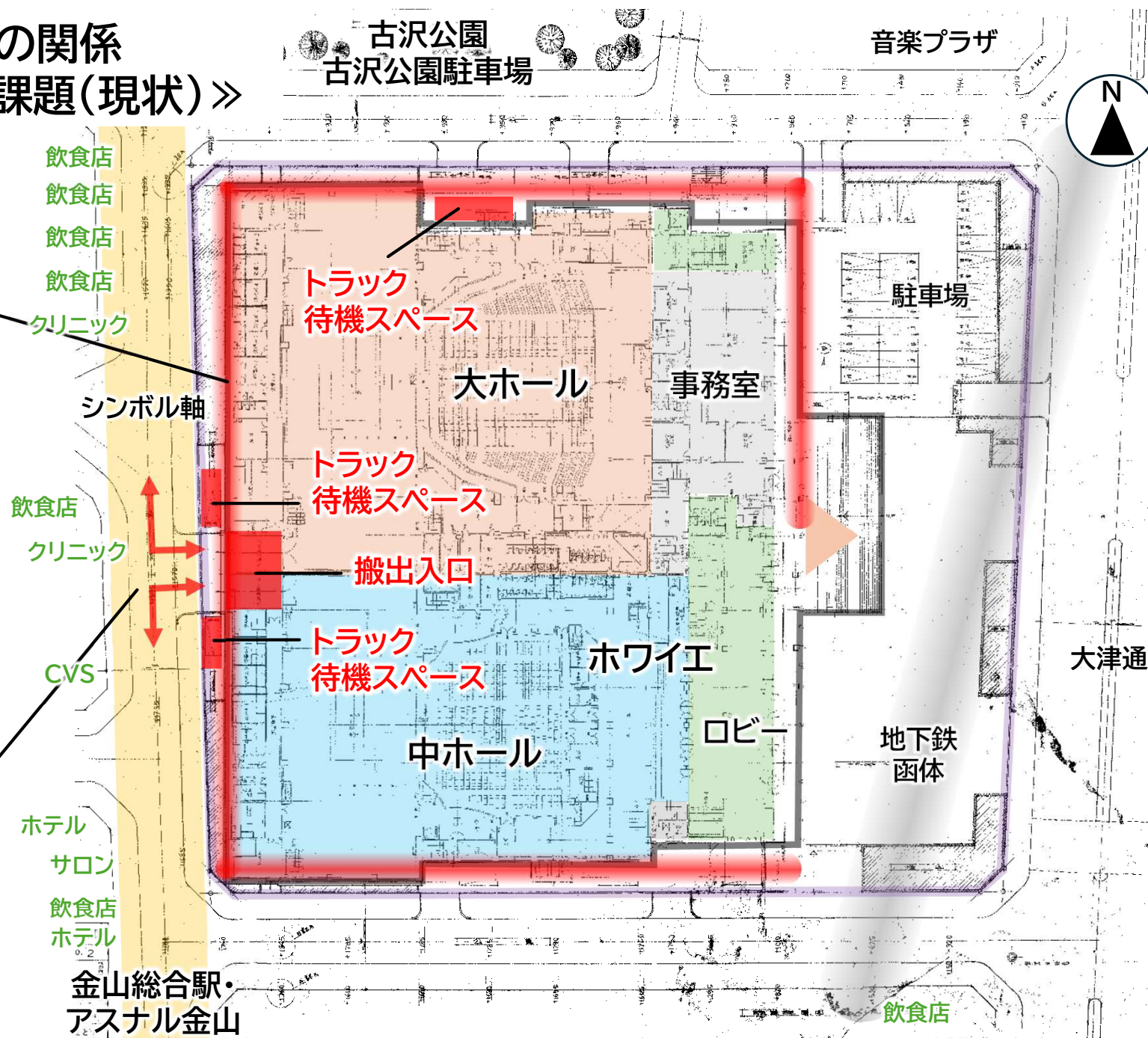
1-2 機能配置のイメージとまちづくりとの関係について

《まちづくりとの関係 における課題(現状)》

壁面で囲われ
閉ざされた
部分

現状でも、
シンボル軸沿
いの低層部
には飲食店
などの店
舗が立ち
並んでいる

ウォーカブル
な空間形成を
目指すシン
ボル軸側に
大型車
両が流入



1-2 機能配置のイメージとまちづくりとの関係について

《まちづくりとの関係性》

※令和6年7月 新たな劇場整備・運営等懇談会資料抜粋

2 整備計画

(3) 機能配置イメージ（古沢公園・市民会館エリア）

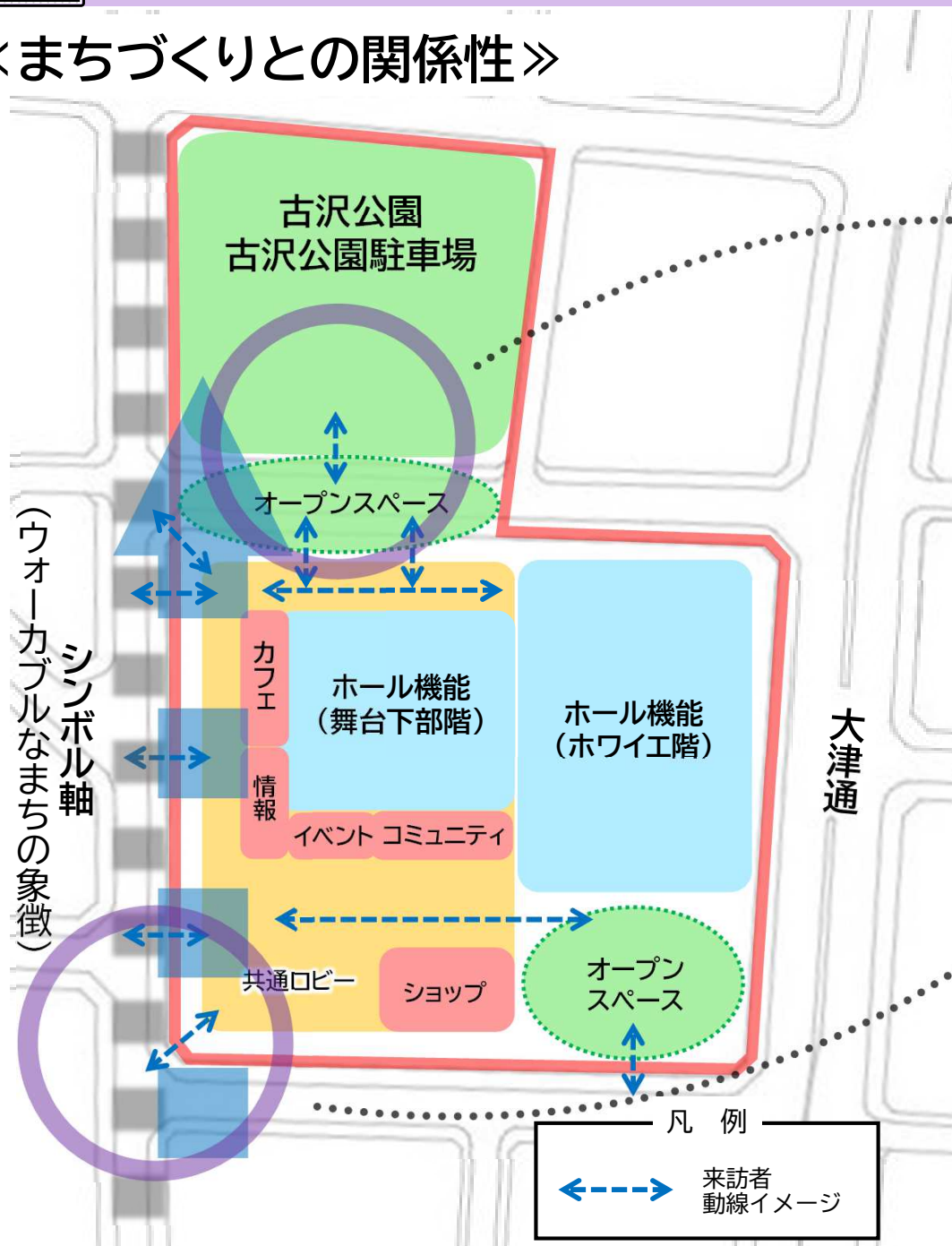
配置の考え方

- 敷地内に誰でも気軽に利用でき、文化芸術活動の場として利用できるオープンスペースを配置
- 古沢公園と新たな劇場をオープンスペースでつなぎ、劇場と公園を一体感のある魅力あふれる空間として整備
- まちに開かれた劇場を目指すため、1階部分には共通ロビー、にぎわい・交流スペースを配置
- 共通ロビーは鑑賞目的のない人でも気軽に訪れることができる空間とし、まちの回遊性を高めるため通り抜け可能な空間とする
- 共通ロビーに面した共用部に、日常的にイベント開催可能なスペースを配置し、にぎわいを創出
- 共通ロビーやシンボル軸などの通りに面して、市民の来館を促すショップ等や来館者がくつろぎ、交流することができるカフェ等の併設施設を配置
- 共通ロビーに面して市内の文化芸術に関する情報を一元的に集約発信する情報スペースを配置



1-2 機能配置のイメージとまちづくりとの関係について

《まちづくりとの関係性》



《新たな劇場基本計画より》



《金山駅周辺まちづくり計画より》



「人・文化・芸術とともに育つまち」や
「文化芸術の裾野拡大」を実現する
「開かれた劇場」を目指す

目 次

- 1 整備に関する基本方針等について
 - 1-1 新たな劇場におけるPFI事業(BTO方式)の事業範囲について
 - 1-2 機能配置のイメージとまちづくりとの関係について
- 2 施設の機能及び性能について
 - 2-1 第1ホール、第2ホールについて
 - 2-2 各諸室について
 - 2-3 搬出入について
- 3 バリアフリー性能について

2-1 第1ホール、第2ホールについて

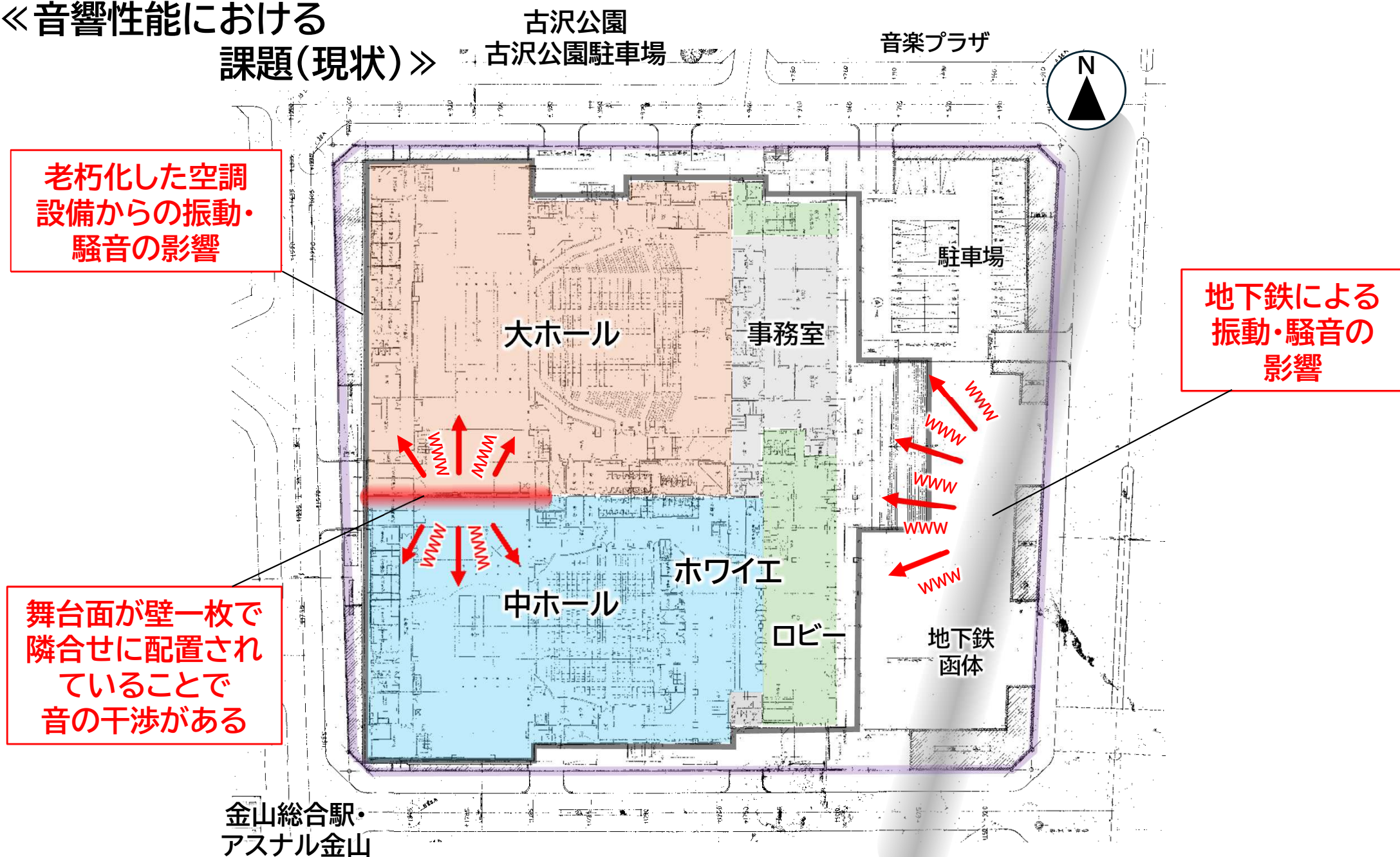
《舞台形式など》

	現市民会館 大ホール	新たな劇場 第1ホール	現市民会館 中ホール	新たな劇場 第2ホール
コンセプト	聴くホール (音楽 > 舞踊、演劇)		観る・魅せるホール (舞踊、演劇、伝統芸能 > 音楽)	
舞台形式	プロセニアム形式		プロセニアム形式	
客席数	2,291席	2,200席程度	1,146席	1,500席程度
音響性能	空調や地下鉄騒音、 ホール間の音の干渉 〔地下鉄走行時NC値 NC30〕	現在の課題を解消し 生音の鑑賞に対応する 音響空間	空調や地下鉄騒音、 ホール間の音の干渉 〔地下鉄走行時NC値 NC33〕	現在の課題を解消し 第1ホールに準じた 音響空間

- ・新たな劇場基本計画にも現状の課題として、「現市民会館の音性能の評価の低さ」を明記
- ・音響性能確保のため、第1ホールと第2ホールの物理的な距離の確保や遮音性を高めるボックスインボックスなどによる対策が必要

2-1 第1ホール、第2ホールについて

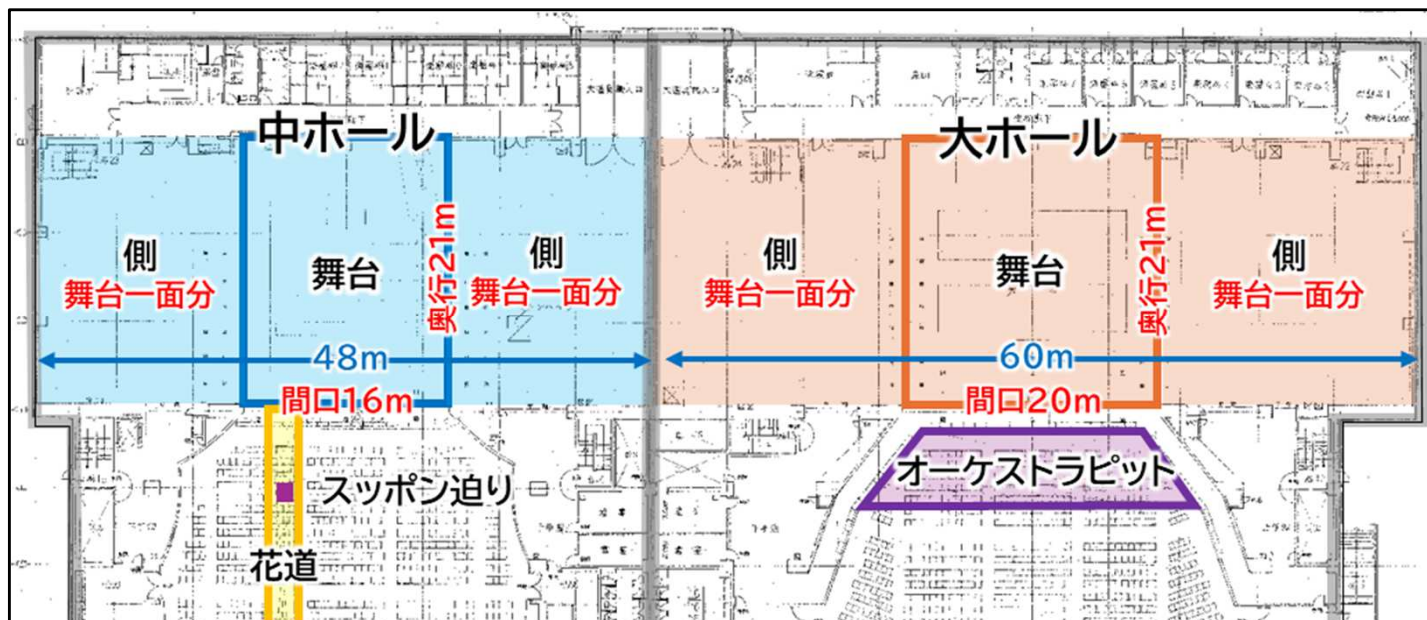
≪音響性能における 課題(現状)≫



《舞台》

	現市民会館 大ホール	新たな劇場 第1ホール	現市民会館 中ホール	新たな劇場 第2ホール
主舞台	間口20m 奥行21m程度 高さ11.5m	間口20m 奥行21m程度 高さ9～15m（可変）	間口16m 奥行21m程度 高さ7.2m	間口16.4m 奥行21m程度 高さ9～13m（可変）
音響反射板 設置時奥行	11.7m	13m	10m	11m
側舞台	上下両側に 各舞台1面分	舞台1面分と 約1/2面分以上	上下両側に 各舞台1面分	舞台1面分と 約1/2以上

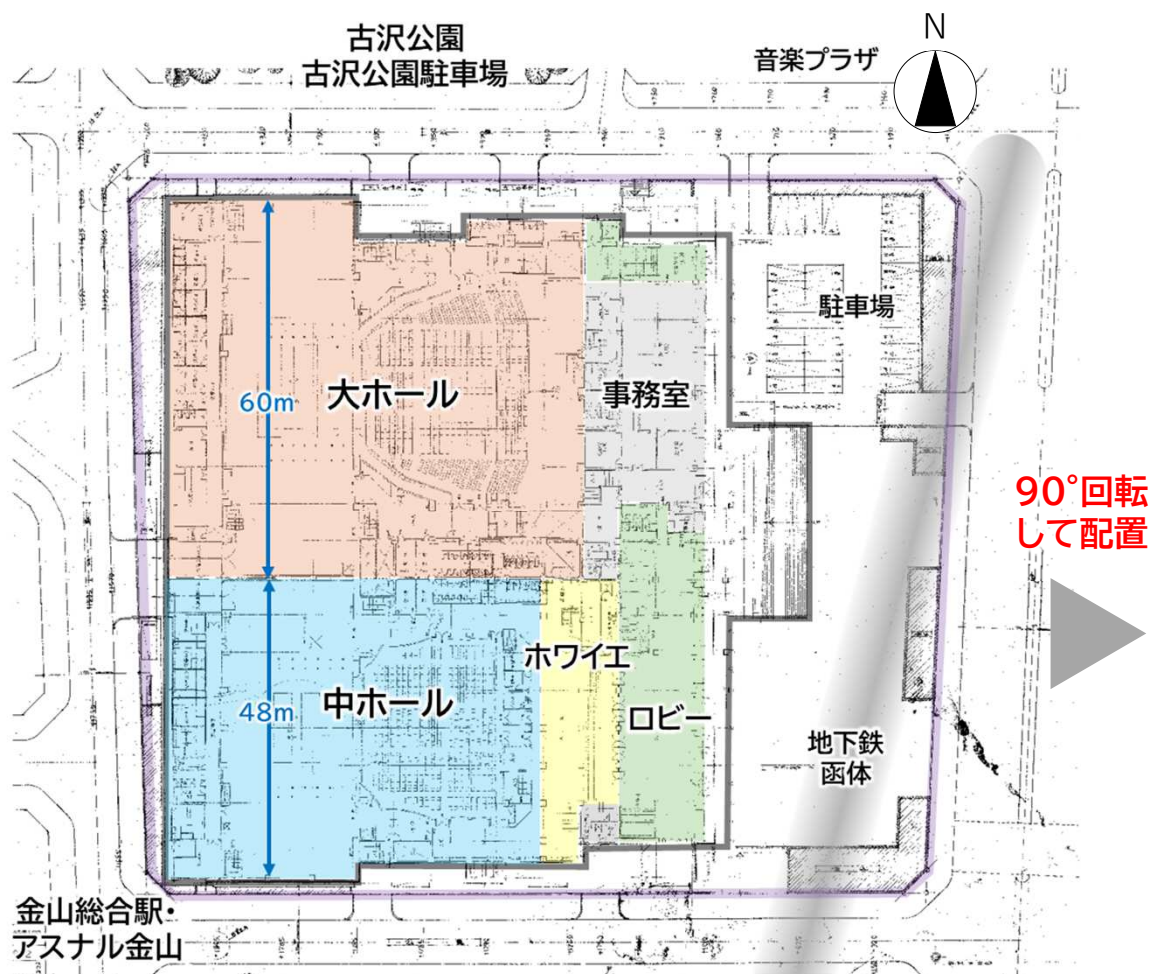
《側舞台における課題》



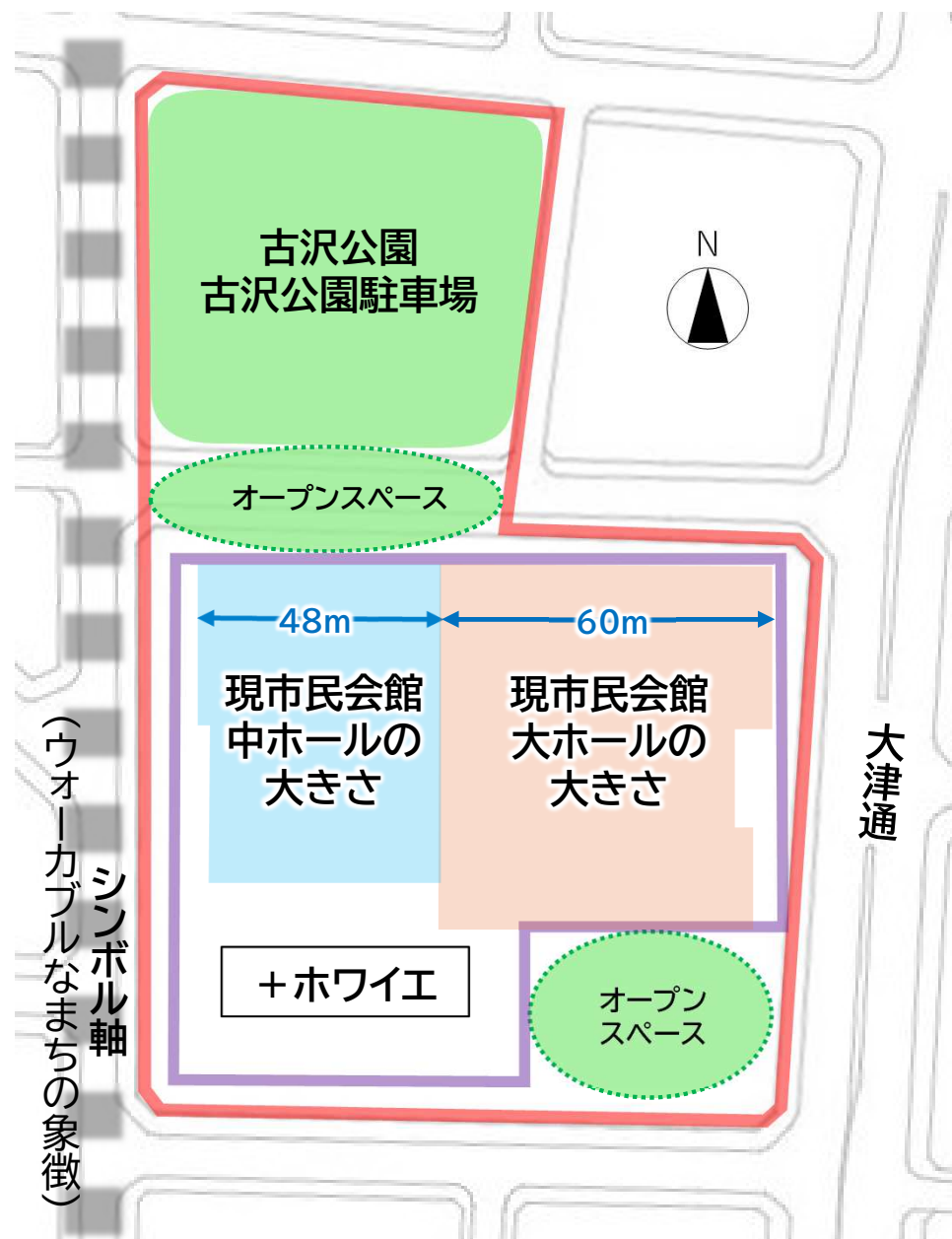
- ・大・中ホールとも舞台一面分の側舞台が上下両側にあることで、舞台関係者からは、設営や場面転換のし易さなど一定の評価をいただいている。
- ・一方で、大ホールは60m、中ホールは48mの横幅が必要となり、賑わい交流スペースなど他の機能を導入する際に支障になる可能性が高い。

2-1 第1ホール、第2ホールについて

《側舞台における課題(現状)》

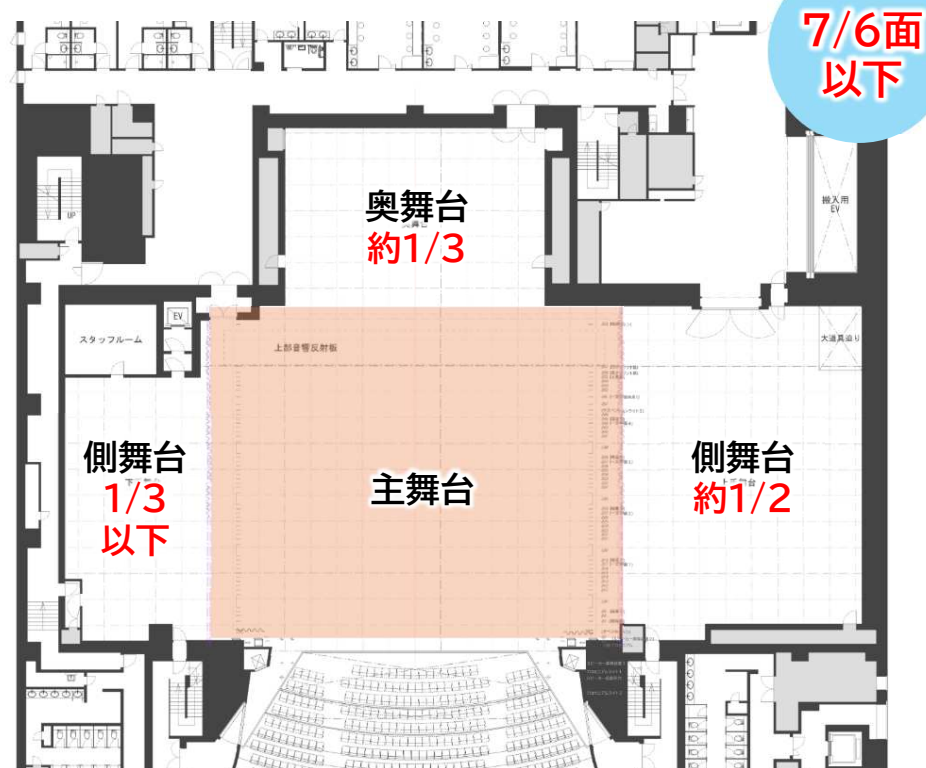


現状の側舞台の大きさのままでは、平面的な余白が不足し、シンボル軸や古沢公園などと連続した通り抜けの空間形成に制約

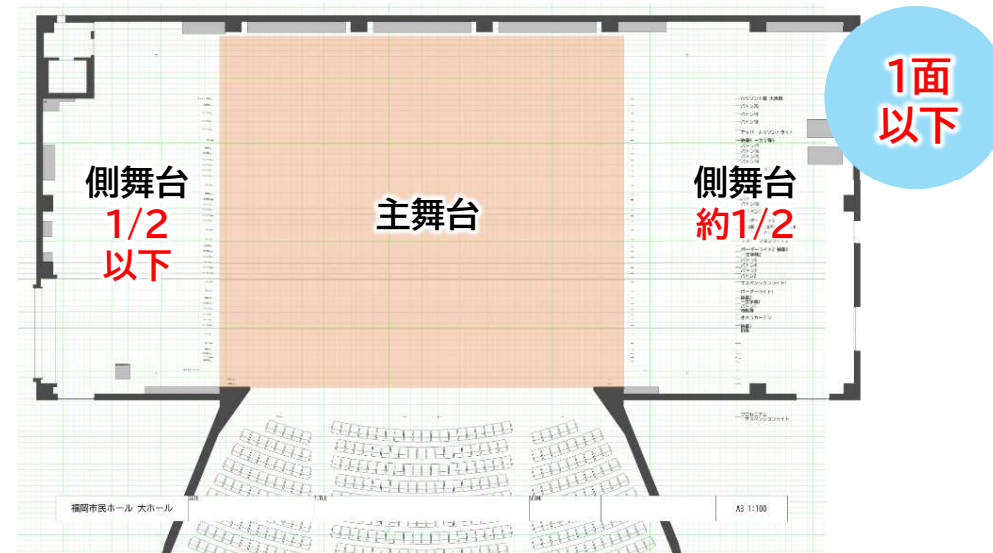


《側舞台における他都市事例》

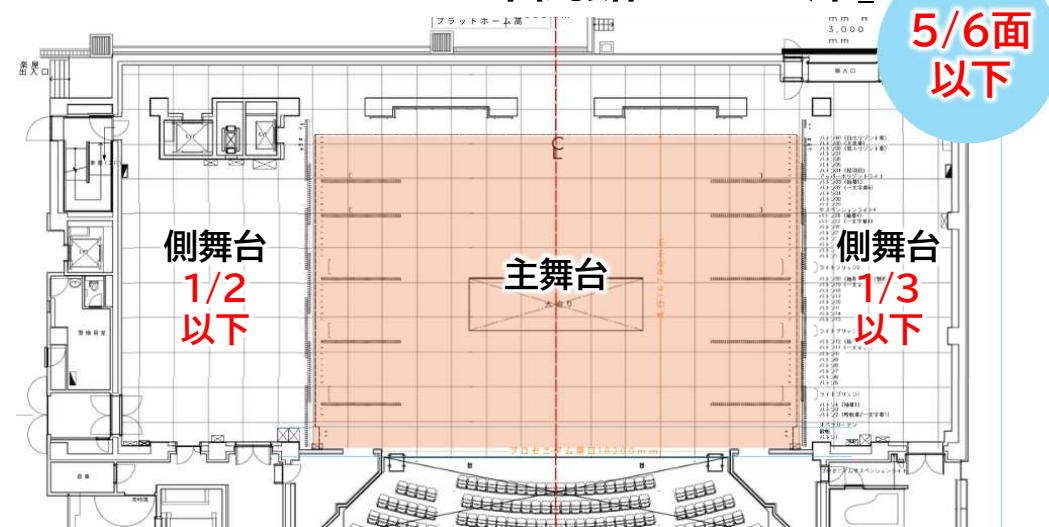
① 札幌文化芸術劇場hitaru 2018年開館:2302席



② 福岡市民ホール 2025年開館:2016席



③ 岡山芸術創造劇場ハレノワ 2023年開館:1753席



新たな劇場では主舞台に対して約1.5面以上の側舞台を設けることで、現状の使いやすさを維持しつつ、「開かれた劇場」とするための空間を確保していく

2-1 第1ホール、第2ホールについて

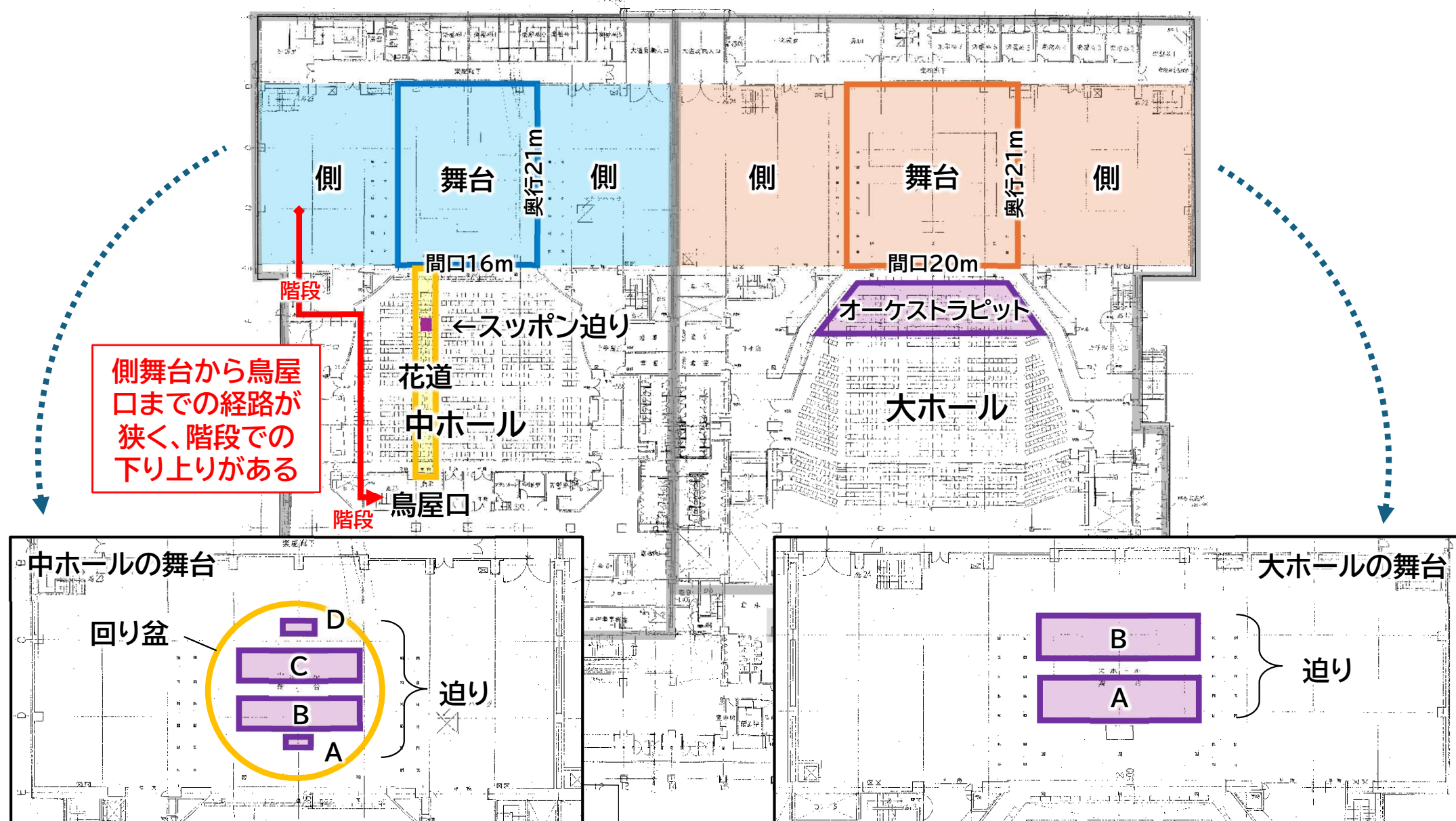
＜舞台機構等＞

		現市民会館 大ホール	新たな劇場 第1ホール	現市民会館 中ホール	新たな劇場 第2ホール
舞台機構	音響反射板	可動式の音響反射板	可動式の音響反射板 運搬用の出入口設置	可動式の音響反射板	可動式の音響反射板 運搬用の出入口設置
	オーケストラ ピット	4管編成フルオーケストラへの 対応を基本		なし	
	花道 すっぽん迫り	なし		電動昇降式による 花道とすっぽん迫り	サイトライン確保に 配慮した仕様
	迫り等	大迫り2基	舞台中央に大迫り 1基 ※仕様については 建設費高騰を考慮	大迫り2基、小迫り 2基、回り盆1基	舞台中央に大迫り 1基、回り盆1基 ※仕様については 建設費高騰を考慮
奈落		主舞台と同規模の奈落 ※仕様については建設費高騰を考慮		主舞台と同規模の奈落 ※仕様については建設費高騰を考慮	

- ・音響反射板は、設営時や場面転換時にピアノなどを搬出入できる出入口を設ける
- ・花道は、サイトラインの確保に配慮した仕様とし、スッポン迫りは、花道設置を前提とした機構とする
- ・迫り、回り盆、花道、奈落は、現市民会館と同等の機能の継承を基本とするが、特殊品かつオーダーメイドで高価な迫り等、地下工事のボリュームが増加する奈落については、建設費高騰を考慮した仕様とする

2-1 第1ホール、第2ホールについて

《現市民会館の主な舞台機構》

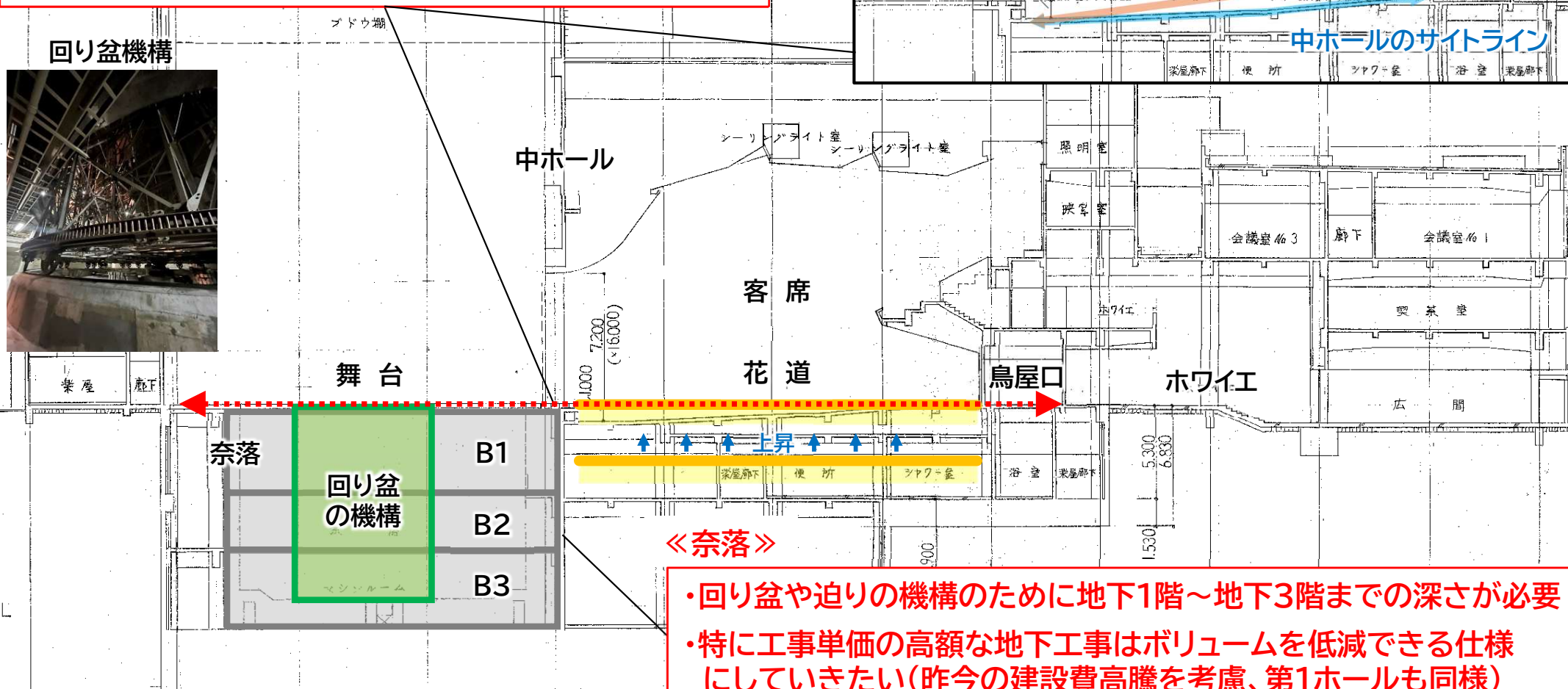
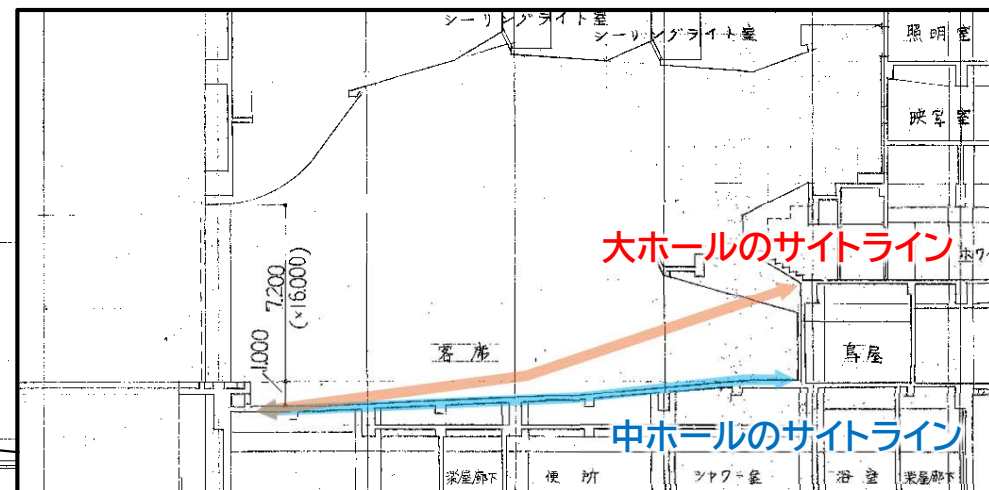


2-1 第1ホール、第2ホールについて

《花道と奈落の課題(現状)》

《花道》

- ・芝居の安全性を考慮し、舞台⇄花道⇄鳥屋口の床を水平にする必要がある
- ・その結果、1階客席のサイトラインが下がり、鑑賞面では、舞台が見づらくなり、技術面では舞台照明の効果が薄れる



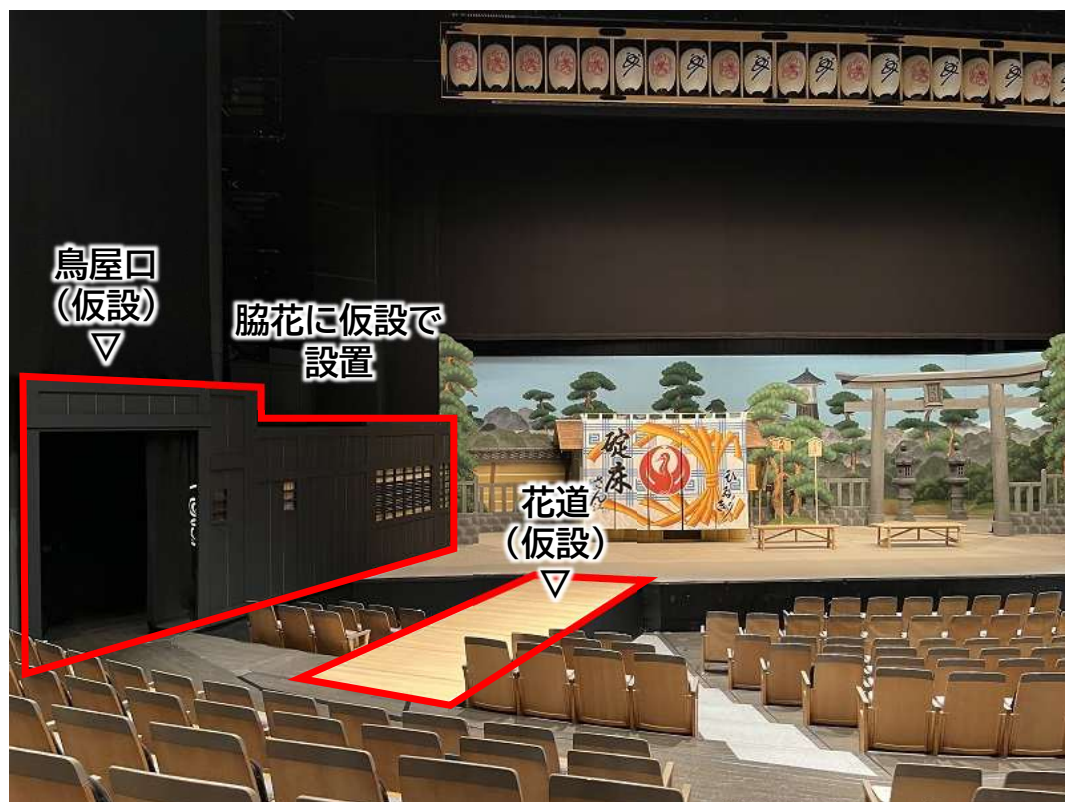
《奈落》

- ・回り盆や迫りの機構のために地下1階～地下3階までの深さが必要
- ・特に工事単価の高額な地下工事はボリュームを低減できる仕様にしていきたい(昨今の建設費高騰を考慮、第1ホールも同様)

2-1 第1ホール、第2ホールについて

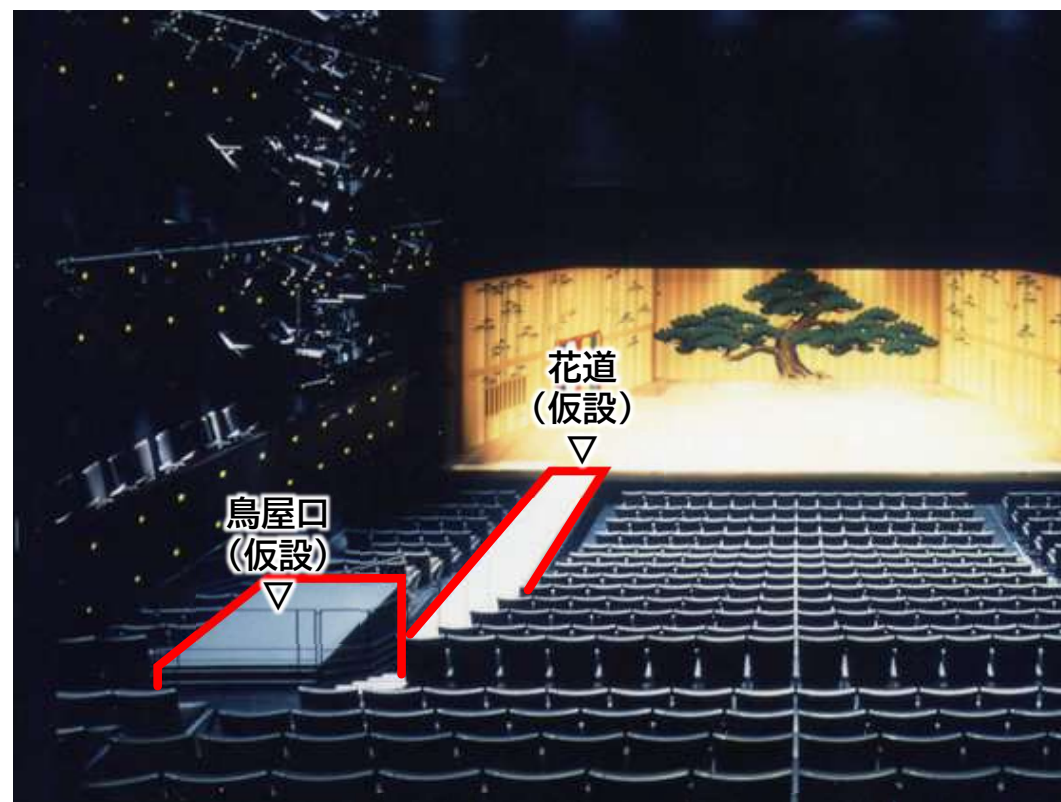
《仮設花道・鳥屋口の事例》

新国立劇場中劇場_歌舞伎公演



出展:新国立劇場HP

新潟市民芸術文化会館



出展:りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館HP

目 次

- 1 整備に関する基本方針等について
 - 1-1 新たな劇場におけるPFI事業(BTO方式)の事業範囲について
 - 1-2 機能配置のイメージとまちづくりとの関係について
- 2 施設の機能及び性能について
 - 2-1 第1ホール、第2ホールについて
 - 2-2 各諸室について
 - 2-3 搬出入について
- 3 バリアフリー性能について

2-2 各諸室について

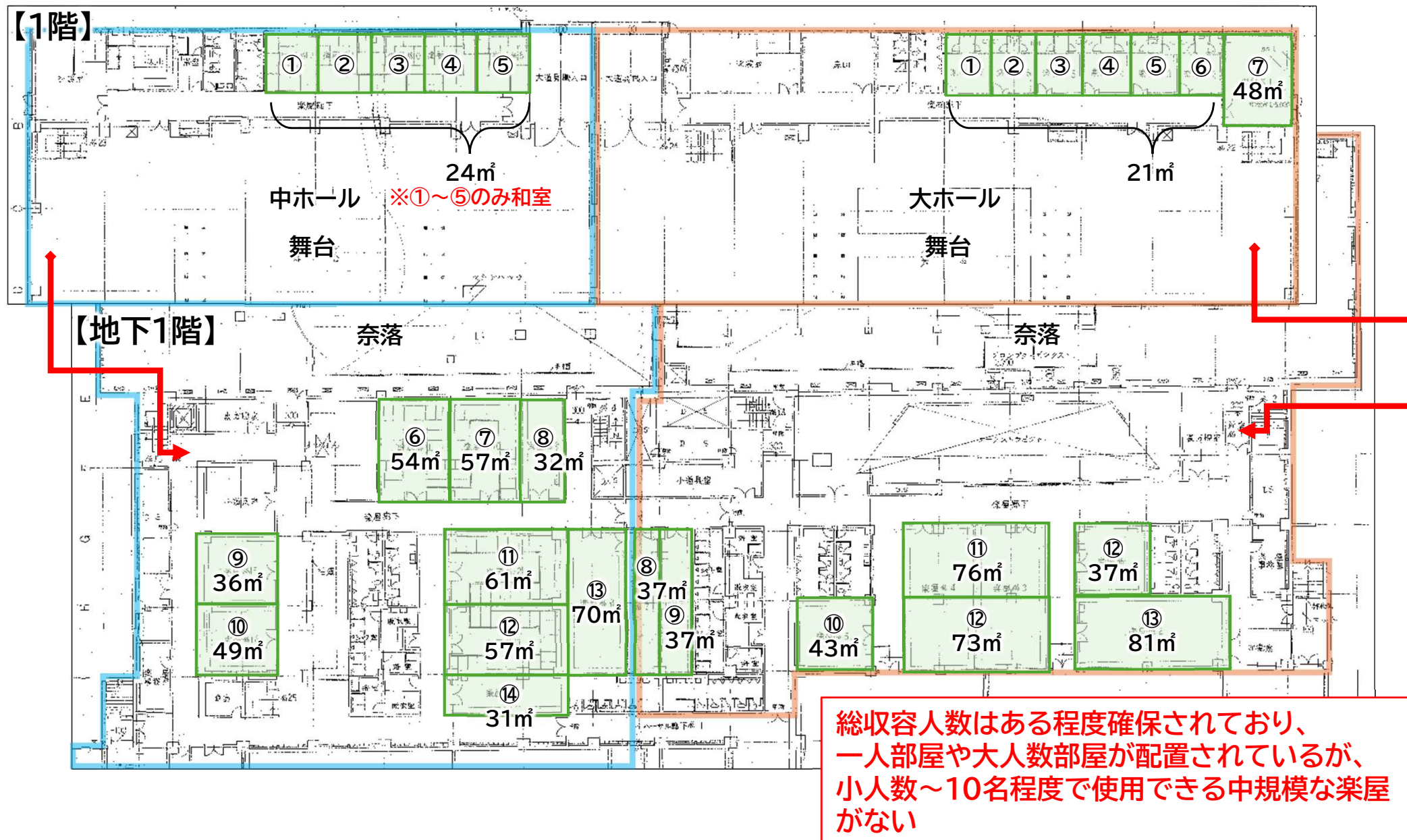
《楽屋》

	現市民会館 大ホール	新たな劇場 第1ホール	現市民会館 中ホール	新たな劇場 第2ホール
楽屋の位置	舞台と同一階の楽屋のほか、同一階ではない楽屋も活用	可能な限り舞台と同一階かつ近い位置に楽屋を整備	舞台と同一階の楽屋のほか、同一階ではない楽屋も活用	可能な限り舞台と同一階かつ近い位置に楽屋を整備
総収容人数	4管編成フルオーケストラへの対応を基本 ※100～120名程度		4管編成フルオーケストラへの対応を基本 ※100～120名程度	
楽屋関係諸室	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台技術者控室×2 ・楽屋事務室 ・シャワー室 ・倉庫 ・洗濯室 	現状に加え諸室を充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ラウンジ ・主催者スタッフ控室×2 ・調音室 ・グリーンルーム ・給湯室 	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台技術者控室 ・床山 ・楽屋事務室 ・シャワー室 ・倉庫 ・洗濯室 	現状に加え諸室を充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ラウンジ ・主催者スタッフ控室×2 ・調音室 ・グリーンルーム ・給湯室

- ・主催者スタッフ控室、ラウンジ、グリーンルームを設け、演者とスタッフがコミュニケーションを図りやすい配置に配慮する
- ・出演者動線上においても、EVやバリアフリートイレの設置などインクルーシブな仕様とする
- ・各室にモニター等を設置し、舞台・客席・ホワイエなどの様子が確認できる仕様とする

2-2 各諸室について

《楽屋の課題(現状)》



2-2 各諸室について

《楽屋の部屋数》

		現市民会館 大ホール	新たな劇場 第1ホール	現市民会館 中ホール	新たな劇場 第2ホール
部屋数 (大きさ㎡)	特別楽屋 1～3人	—	1室以上 (約20㎡)	—	1室以上 (約20㎡)
	小楽屋 1～3人	6室 (21㎡)	4室以上 (約20-25㎡)	和室5室 (24㎡)	4室以上 (約20-25㎡)
	中楽屋 4～10人	—	4室以上 (約30㎡)	—	4室以上 (約30㎡)
	大楽屋 11～20人	8室 (48～81㎡)	3室以上 (約60㎡)	9室 (32～70㎡)	2室以上 (約60㎡)
	計	14室	トータル 17区画程度	14室	トータル 17区画程度

- ・総収容人数は、4管編成フルオーケストラへの対応を基本とし、可能な限り舞台と同一階かつ近い位置に楽屋を整備
- ・楽屋の規模のバリエーションを増やし、可動間仕切り等でフレキシブルな利用も想定

2-2 各諸室について

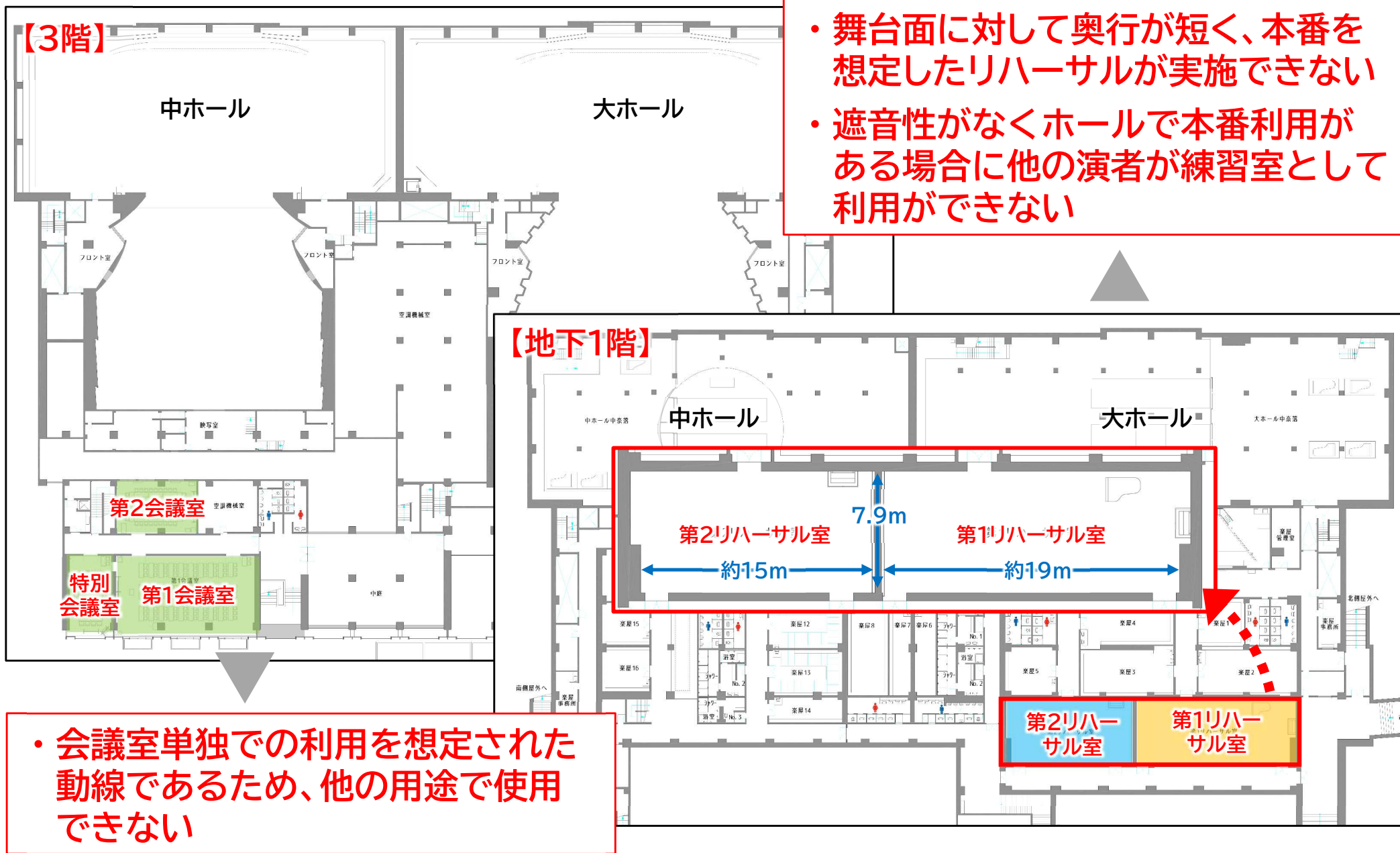
<<スタジオ・練習室・会議室>>

: 課題解消
: 機能強化

	現市民会館	新たな劇場
スタジオ	各リハーサル室は大ホール・中ホールの舞台面積の半分程度の広さにとどまる（2室）	<div> ・ 大スタジオは立稽古が可能な第1ホール舞台と同等以上の広さ ・ 中スタジオは第1ホールの音響反射板設置時の演奏エリアと同等以上の広さ </div>
		<div> ・ 音楽、演劇、ダンス等の練習の場として整備 ・ 先進的な設備を備え、各ホールのリハーサルのほか本番利用にも対応可能 ・ 本番利用や電気楽器等の練習にも対応可能な防音・遮音性能に配慮した構造 ・ ホールの楽屋や会議等にも使用できるよう動線に配慮 ・ 倉庫、更衣室等を整備 </div>
練習室	なし	<div> ・ 音楽、演劇、ダンス等の練習の場として整備（4室以上） </div>
		<div> ・ 電気楽器等の練習にも対応可能な防音・遮音性に配慮した構造 ・ ホールの楽屋や会議等にも使用できるよう動線に配慮 ・ 倉庫、更衣室等を整備 </div>
会議室	ホールとは独立した会議室が3室	<div> ・ 各種会議や研修等、多目的な用途に利用（3室以上） ・ ホールの楽屋にも利用できるよう動線に配慮 ・ 倉庫等を整備 </div>

2-2 各諸室について

《リハーサル室・会議室の課題(課題)》



2-2 各諸室について

《リハーサル室・会議室の課題》

【新たな劇場を核とした文化芸術施策展開のイメージ】

※新たな劇場基本計画抜粋



音楽プラザ



合奏場(485㎡)



大リハーサル室(230㎡)



中リハーサル室(148㎡)



新たな劇場と合わせて音楽プラザのリハーサル室等も活用・連携し、金山エリアとして充実した練習施設の運営を目指す

目 次

- 1 整備に関する基本方針等について
 - 1-1 新たな劇場におけるPFI事業(BTO方式)の事業範囲について
 - 1-2 機能配置のイメージとまちづくりとの関係について
- 2 施設の機能及び性能について
 - 2-1 第1ホール、第2ホールについて
 - 2-2 各諸室について
 - 2-3 搬出入について
- 3 バリアフリー性能について

<<搬出入>>

: 発展

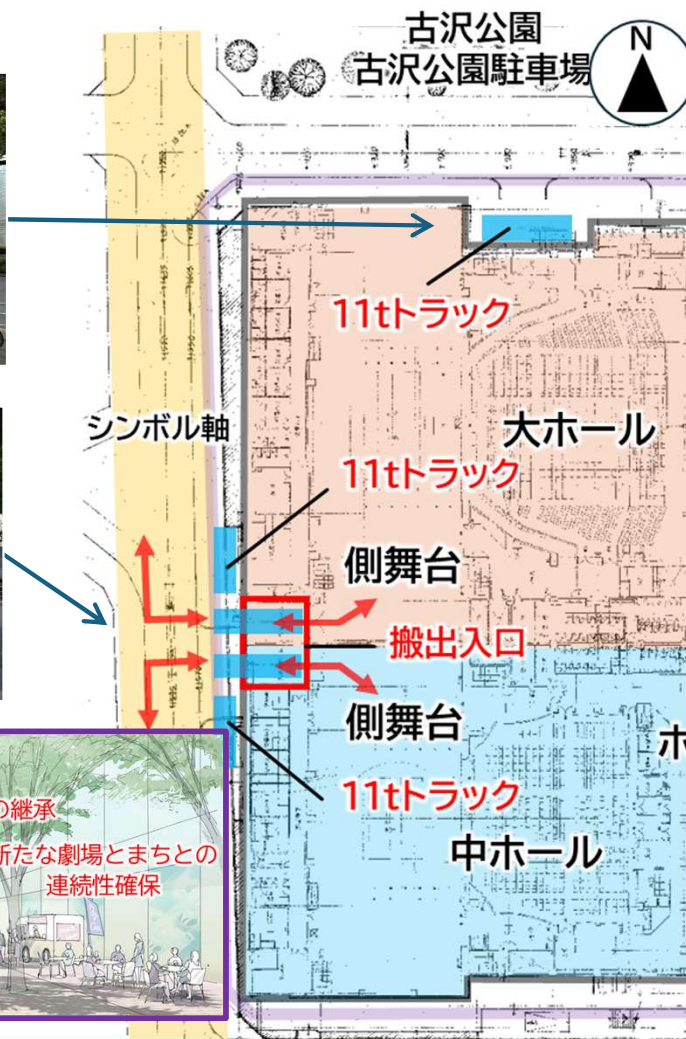
: 課題解消

	現市民会館	新たな劇場 (古沢公園・市民会館)
搬出入車両	11t トラックに対応するが車両が建物内に収まらない	大規模公演に対応できるよう複数台の11t ウィングルーフトラックの搬出入に対応
搬出入方法	1 階の舞台レベルで直接搬出入が可能	1 階をにぎわい・交流スペース等でまちに開くため、大型EVを設置して上層階に搬出入する
荷捌きスペース	舞台裏までトラックが寄り付けるため小スペースの荷捌き空間	大型EVで効率よく搬出入を行うため、舞台・楽屋とのスムーズな動線と十分な荷捌きスペースを確保
搬出入作業	<ul style="list-style-type: none"> 雨天、荒天時作業に難あり 搬出入作業に伴う近隣への騒音に難あり 	<ul style="list-style-type: none"> 雨天、荒天時作業に対応 搬出入作業に伴う近隣への騒音低減に配慮

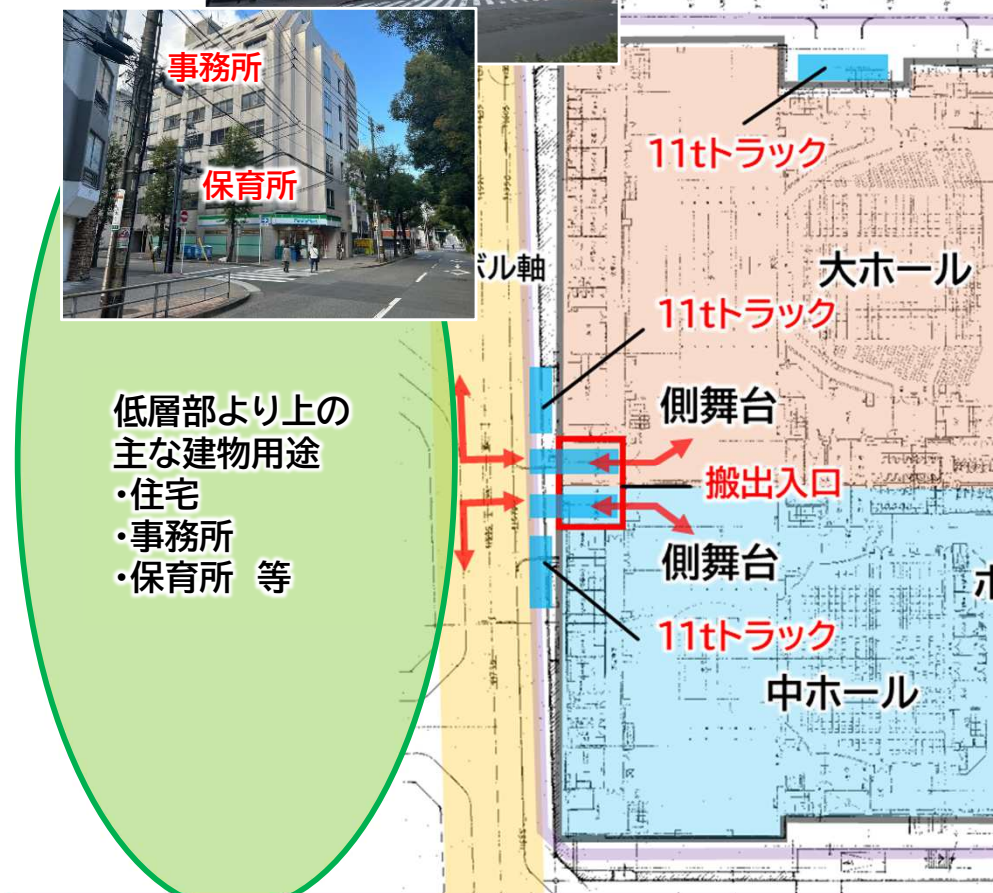
- 搬出入作業の効率化を図るとともに複数台の11tウィングルーフトラックの待機も対応
- 天候に左右されず、近隣への作業騒音配慮を基本とする

2-3 搬出入について

《搬出入に関する課題(課題)》



- ・11tウインググループトラックの待機場所が足りず、他施設の駐車場で待機している
- ・屋根等が十分ではなく悪天候時の搬出入作業が大変
- ・シンボル軸へ大型車両が流入



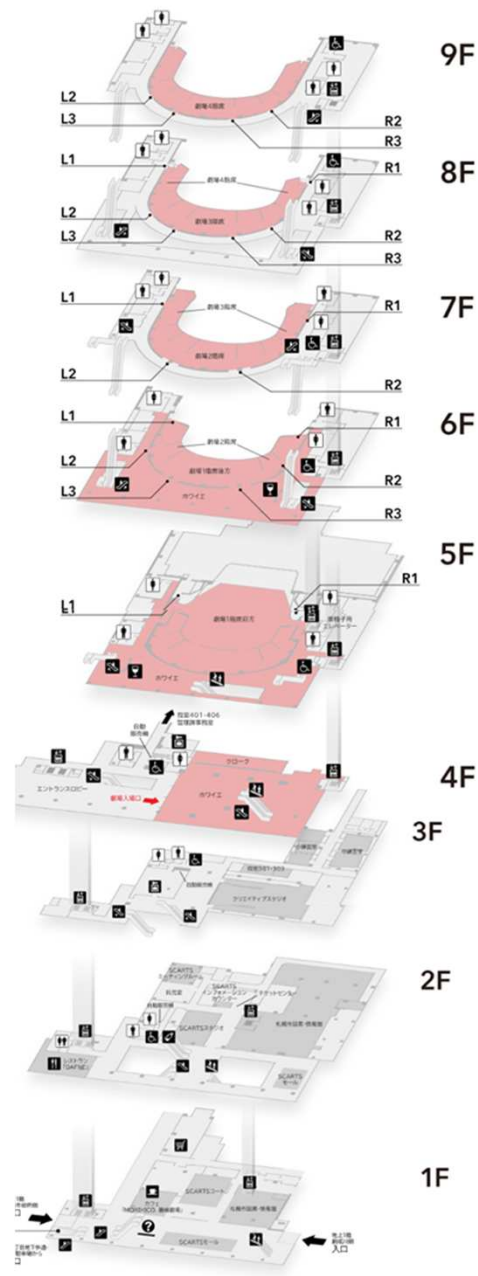
- ・早朝や夜間の搬出入となることが多く、搬出入口の開口部を空けたままの作業となるため、作業音が周辺へ響く

2-3 搬出入について

《上下移動による搬出入の他都市事例》 札幌文化芸術劇場hitaru:2018年開館



出展:札幌文化芸術劇場HP



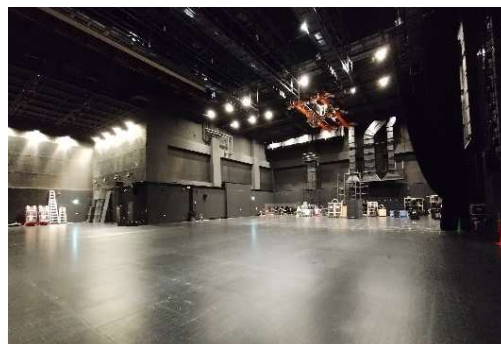
札幌文化芸術劇場
hitaru

札幌文化芸術交流
センターSCARTS
札幌市図書・情報館
飲食、物販など

※地下1階
駐車場、搬出入口

《上下移動による搬出入の他都市事例》 札幌文化芸術劇場hitaru:2018年開館

【地下1階】



① 主舞台から側舞台・搬出入口を望む



② 5階搬出入EV



③ 地下1階荷捌き

【5階】



目 次

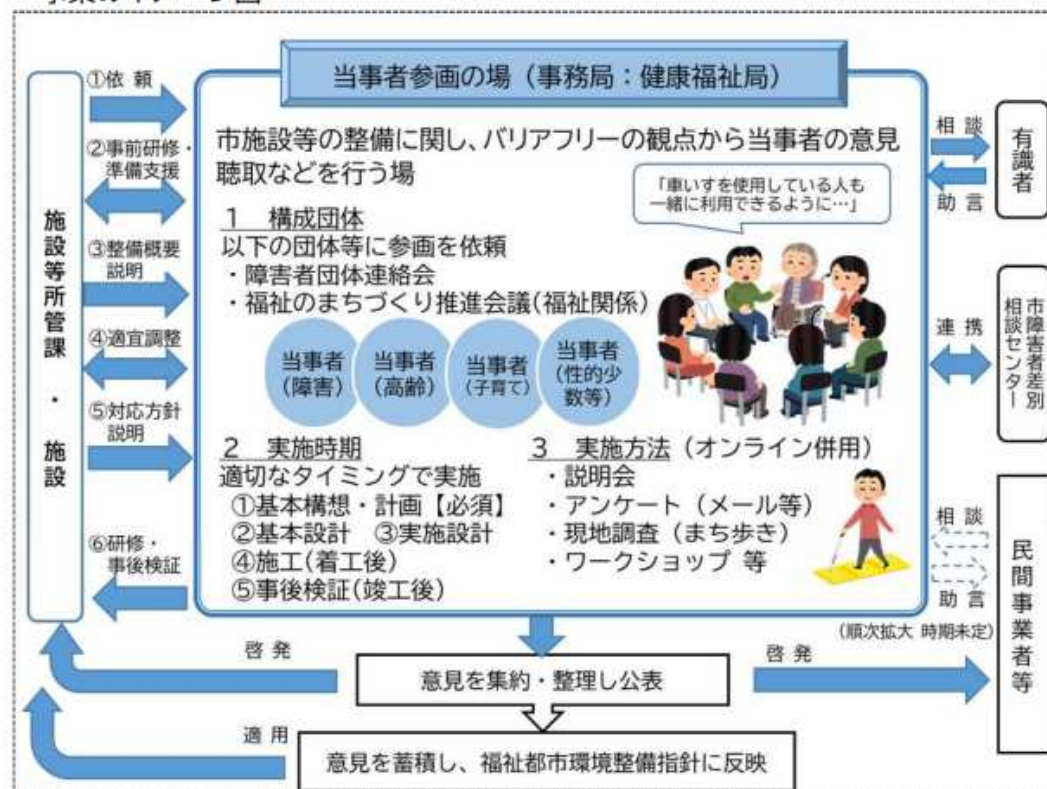
- 1 整備に関する基本方針等について
 - 1-1 新たな劇場におけるPFI事業(BTO方式)の事業範囲について
 - 1-2 機能配置のイメージとまちづくりとの関係について
- 2 施設の機能及び性能について
 - 2-1 第1ホール、第2ホールについて
 - 2-2 各諸室について
 - 2-3 搬出入について
- 3 バリアフリー性能について

3 バリアフリー性能について

1 バリアフリー整備相談支援事業

バリアフリーのまちづくりを進めるため、障害者や高齢者をはじめ配慮を必要とする当事者(以下「当事者」という。)が、市が行う施設整備に参画する場(以下「当事者参画の場」という。)を設けることで、市や事業者では気づくことのできない使いやすさ等のニーズを施設整備に反映させ、誰もが使いやすい施設の整備を進めるもの。

《事業のイメージ図》



(事務局:名古屋市健康福祉局)

2 当事者参画の場の概要

当事者参画の場は、市の公共建築物、道路、公園、公共交通機関等の整備について、バリアフリーの観点から障害、高齢、子育て、性的少数等の当事者と施設等所管課とが対話する場として、案件に応じて開催する。

3
バリアフリー性能ついて

新たな劇場整備・運営に関する主な意見(10月)

事 項	内 容
トイレ	トイレの全個室に乳幼児用いすを設置してほしい。
	男女ともベビーカーごと入れる大き目のブースを設置してほしい。
	男女別トイレとバリアフリートイレ2つをセットで設けてほしい。
アクセスルート	車椅子の人だけ別のルートで移動するようなことはせず、同じルートで目的地にたどり着けるようにしてほしい。
	地下鉄金山駅から市民会館へ行く時に段差があり、車いすで通行できないため、地下からの出口を二つ設けるほうがよい。
授乳室等	男女ともに利用できる個室の授乳室を設置してほしい。
客席	カームダウン室を作してほしい。皆が集まる場所とするために必要だと思う。
	客席について、個室で鑑賞できる場所を作してほしい。
情報・案内	スマホでなければ様々なことができないという状況にならないように、案内板を見て分かる、コンシェルジュに聞くことができるという整備をしてほしい。
	視覚障害者は、現場の変化に弱い。例えば、点字ブロックが変更される、壁ができてしまうということがあると困る。今後、当事者団体等へ事前に周知することもお願いしたい。
その他	にぎわい・交流スペースについて、子連れの人が行きたくなる遊び場スペースや子どもが食事できる飲食店の選定を工夫してほしい。(イメージとしては、うどんとかお子様ランチみたいなもの。ハンバーガーなどは、小さな子ども連れやお年寄りを利用しにくい)

⇒ 今後、整備段階等を踏まえ、設計や工事の段階でも引き続き、相談を実施